



さ
ろ
ま
げ
ん
き
王
国

保健福祉課保健推進係

Tel 2・1212

見逃さないでほしい子どもの気になるサイン ～発達障害の理解について～

発達障害とは？

ここ20～30年の間に発達障害と診断される子の割合が増えていきます。いくつかの説がありますが明確な理由はわかっていません。おそらく発達障害の認知

が高まり、以前よりも軽い特性をもった子が診断を受ける機会が増えたことが原因の一つと考えられます。「昔は診断を受けずに済んでいたのなら、わざわざ診断をつける必要はないのでは」と考える人もいるかもしれませんが。しかし、たとえ症状が軽くても支援が必要な場合があります。

今月は子どもの発達障害の理解についてお伝えいたします。

発達障害は、“発達の遅れ”という意味ではなく、生まれつき脳の機能の一部に障害があることで、さまざまな「症状」が現れ、そのために日々の生活でなにかしらうまくいかないことが起こりやすい状態を指します。

発達障害は脳の機能によりいくつかのタイプに分類されており、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）や注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などが含まれます。

発達障害については、誤解や偏見が少なからず存在し、本人の努力不足、親を中心とした家族や関係者の関わり方の問題などが原因ではないかと指摘されることもあります。いずれも脳の機能の偏りが原因であり、しつけや育て方の問題ではありません。その子がどのようなことが得意で、何が苦手なのかを把握し、保護者や周りの支援者はその子の特性に見合った丁寧な関わりや早くから現状に合わせた支援が行われれば、子どもは自分の中にある可能性を伸ばしていくことができます。

子育てに関する相談は…

保健福祉課保健推進係

☎ 2・1212

子どもたちの気になるサイン

日々の生活の中で見せる子どもたちの会話や行動には発達障害の特性につながるサインが隠されていることがあります。

《しぐさ》

人との関わりを持つことが苦手な感じがする

- 名前を呼んでも振り返らない。
- 母親がいなくても平気でいる。
- ひとりで遊んでいることが多い。
- 目と目で見つめあったり、身振りをしたりすることが少ない。
- お気に入りのおもちゃや気に入った物を母親や友達に見せたり、持ってきたり、指さしをしたりすることが少ない。
- 人に対する関心が薄く、物に対する関心が強い。

《行動》

興味の対象がせまい感じがする

- 不安感が強かったり、興味の対象がせまかったりする。
- 身体をくるくる回転させるなど同じ動きをしたり、特定のものにこだわったりする。
- 水の感触が好きで、水を出しっぱなしにして触り続ける。
- 気に入ったものを集めるのが好きで、執着が激しい。

《会話》

言葉の発達に遅れや偏りがある感じがする

- 話し言葉に遅れがあったり、身振りのような方法で補おうとしたりしない。
- 冷蔵庫のジュースを飲みたいときに、黙ってお母さんの手を取ってジュースのところに連れていく。
- 言葉は出るが、コミュニケーションにつながらない。

気になるサインの出方は子どもによって様々です。また、保育所等の集団活動に参加するようになってから気づく場合もあります。

早期に発達障害を知る必要性

なぜ発達障害を早期に知る必要があるのでしょうか？子どもの特性を知らなければ、親は「なぜ他の子と同じようにできないのだろう」と悩み、いら立ちをつのらせることになっていきます。夫婦間の子育てに対する意見もすれ違いやすく、疲れも積み重なっていきます。その結果、子どもにも心にもない言葉をぶつけてしまったり、手をあげてしまったりすることもあるかもしれません。一方、子どもはいえ、いかられてばかりで自尊心が傷つき、いつも不安な気持ちになって、ますます親をいら立たせるような行動をと

るなど悪循環です。

発達障害のある子どもたちは障害の特性から生活面で様々な困難を抱えていることがあり、年齢があがって生活の場が変化するにつれて、子どもたちが直面する困難はさらに増えていくことが予想されます。早いうちから子どもの特性を理解し、適切な対応ができれば、子どもの心を安定させ、その子のもっている個々の能力を伸ばしていくこともできます。発達障害は、できるだけ早い段階で発見して適切な対応を行うほうが、親も子もより日々を暮らしやすくなるのです。

お子さんの発達について心配なことがあればいつでも相談を！

かし、乳幼児期は子どもがいろいろな能力を獲得する時期です。早めの対応により、発達のためすきによる支障を軽減することがとても大切となってきます。

子どもの成長発達には母子手帳や育児書に書いてある通りではないことも多く、お母さんお父さんもお子さんの発達に戸惑うことも多いはずです。「育て方が悪いのかな？」「発達障害って言われたらどうしよう…」そう思い悩む前に相談してください。一人で悩まないで、まずは身近な保健師に声をかけて下さい。